

＜シンポジウム 11—3＞神経内科医のリクルートに繋げる未来への提言

## Disease-oriented Neuroscience Researcher

望月 秀樹

(臨床神経 2011;51:959)

**Key words** : 教育, 疾患指向研究, 患者指向研究, 神経科学

臨床研究は大別すると, Disease-oriented research (DOR) と Patient-oriented research (POR) の二つに分けられる。DOR は, ある病気について病態, 診断, 治療について実験的な研究を推進する疾患指向研究で, ゲノム, プロテオームなどを中心に研究の進歩は目覚ましいものがある。POR は, 患者を直接観察し, 分析する研究でケースコントロール研究やコホートスタディーなどが主体となる。DOR にくらべて大変地味な印象がある。現在では, DOR に研究者が集中し, POR との両立は困難といわれている。これからの神経疾患の臨床研究は, どのようになっていくのであろう。DOR から POR へ, POR から DOR への展開が, 今後神経系の研究でも要求されると思われる。トランスレーショナルリサーチという考え

は, DOR から POR への展開を目指すものと考えても良いのかもしれない。DOR の成果を臨床試験へ, すなわち POR の介入研究へと推進することである。

しかし実際には, 資金面, 人材面, 社会的な理解, 法律上の問題など乗り越える壁は大きい。これらを解決するには, チームを作って推進する必要がある。また一方で, われわれ神経内科医は, 研究の方向性を患者診察からえることができる。患者診察からえられた問題点は, 基礎の研究者にはない観点からアプローチすることが可能である。神経変性疾患などは解決されてない問題が多く, POR から DOR への展開により新たな何かを発見することができるチャンスがある。

### Abstract

#### Disease-oriented neuroscience researcher

Hideki Mochizuki, M.D.

Department of Neurology, Kitasato University

(Clin Neurol 2011;51:959)

**Key words**: Education, Disease-oriented Research, Patient-oriented Research, Neuroscience